



2023

5 月号

第397号

真宗大谷派京都教区 教化広報誌 教区だより

Shinran
500th

— 企画テーマ —
南無阿弥陀仏
人と生まれたことの
意味をたずねていこう

今月の「ことば」は、教区駐在教導が担当しています

今月の「ことば」
過去、未来、
二度とない現在

CONTENTS

2・3面

連載 第6回
真宗教団の中の
女性たち

みよし えつこ
見義 悦子 氏

4面

特集
男女両性で形づくる
教団を目指す研修会

男女共同参画部会

5面

特集
慶讃だより
真宗本廟慶讃法要
レポート

6面

特集
慶讃だより
慶讃法要
お待ち受け大会
丹波第2組

7面

教務所からのお知らせ
イマダカラ

8面

今月の行事予定

京都教区内の風景をお届けしています。『教区だより』では表紙写真の募集を行っています。詳しくは本誌7面、または教務所、教区駐在教導まで。



(富山教区 正覺寺 副住職)

第六回 女性住職実現までの道のり②

「同朋社会の顕現」差別事件の糾弾の中で「女性住職を認めないのは差別である」ということも問われている。

その回答書(資料一二)の中で「女性の住職の問題を始めとする、女性の宗派における資格に関する問題も(中略)五年以内を目途として改正に向けての作業に入る」と回答した。

そして一九九〇年、宗務総長が宗議会で女性の住職就任を一年以内に実現することを表明し一九九一年六月「寺院教会条例」を改正し、初めて女性の住職就任を認めた。しかしその住職就任には条件が付けられていた。住職を欠き、男子である教師がいなくときに限るといふものであった。どこまでも男性中心の体制を堅持したままで「つなぎ目」として認

めたに過ぎない。これまで教団の女性たちが粘り強く要求してきた内容が少しも顧みられていなかった。つまり教団内の女性たちからの声によって動いたのではなく、むしろ教団外からの指摘によって取り組むことになったことを表している。

この件が議会で決議された時、傍聴していた夫から電話で「この女性住職は女性たちが求めていたものか?もし違うなら議会開催中に請願書を出すことだ」といわれ、すぐ教区で問題を共有していた住職や坊守と請願書を作成し提出した。同時に他教区にも連絡して出してもらうことになった。この時はじめて女性たちは請願書ということに耳にした。政治向きには無知であることを痛感したことであった。又、京都で傍聴していた女性たちは、宗務所の玄関前で出てくる議員さんたちに「条件付きでない女性住職の道を開いて欲しい」とビラを作って手渡している。

しかし女性たちの声が通ることではなく、一九九二年三月の住職任命で、教団初の条件付き「女性住職」が誕生した。これに対して一九九二年五月には坊守会連盟研修会参加者から「平等な立場での女性住職の実現」「坊守会を正式な教団の一員として位置付けること」「連区一名ずつ坊守の宗政参加」について要望書が出された。さらに、一九九三年十月と、一九九四年三月(資料一一〇)「おんなたちの会」から要望書が出された。「痛み」を感じ

ている女性たちの存在が見えていないといえる教団に対して、更なる改正を求める声が上がった。真宗の教えは「関係の教学」とも「出遇いの教学」ともいわれる。出遇いが私を変えてくれる。親鸞聖人は流罪を通して庶民と出遇い、底辺に立つて生きることを「いし・かわら・つぶてのごとくなるわれら」と表明された。立脚地を憶念しつづけた。

あらためて思うに、当たり前のように、何の躊躇することもなく発せられる性差別発言は何に起因しているのか。やはり性別役割分担が固定化されてきたことが大きいと思う。社会同様、教団も住職(男性)は公的な部分(政治・経済)、そして教学においては教化する側に位置づけられ、坊守(女性)は寺院内(家庭)で住職を支え、跡継ぎを産んで立派に育てる。そして教化される側に位置付けられて、主従関係を是としてきた長い歴史を持っている。この関係を両性共に受け入れ座りこんできた。

しかし女性たちも同朋会運動により、真宗の教えに出会うチャンスを持てるようになってきた。これまで座り込んで当たり前としてきたことを、問いを持って一つ一つチェックしながら立ち上がってきた。そして疑問に感ずることを声に出す場を求めた。しかし教団は開かれていなかった。願いは両性共に解放される道を歩み出したいと訴えているのである。男性中心の教団に対して、差異を生きる者の声が

反映されることによって、より広い視野に立てるのではないか。そのためには声を出す場とチャンスが欲しい。そして一人同志として真向かいになって言葉を交わしあい（討論）、教団を共に担っていく者になりたい。そのための最初の一步（手がかり）が女性に住職の道を開くことであつた。思えば役割分担の固定化によって、これまで家庭内でも住職と坊守、男と女が対等な他者として真に真向かいになって討論する訓練をしてこなかったことを痛感する。その結果、差異を生きる者同志としての思いを述べあい、聞きあえなくなっていた。それが先の、性差別発言の根底にあるのではないだろうか。両性共の責任といえる。朝のNHKドラマ『舞い上がれ』の中で貴司が舞と結婚する時、こんな短歌を送っている。

目をこらす 見えない星を見るように
一生かけて君を知りたい

親鸞聖人と恵信尼はこんな関係を生きたのではなかっただろうか。一生かけてお互いを確かめあいつづけた関係を。男とは、住職とは、女とは、坊守とはこんなもんだとお互に通じ合えない関係のまま、あきらめ座り込んでしまいがちな私の姿勢に気づかされる短歌であつた。

※先月号のサブタイトルに誤りがありました。正しくは「第五回 女性住職実現までの道のり①」でありました。お詫びして訂正いたします。

【資料二〇】 おんなたちの会北陸有志からの要望書

要望書①（二九九三平成五年）

要望書

私たち「真宗大谷派における女性差別を考えるおんなたちの会」は一九八六年の発会以来、性差別をはじめ宗門内のあらゆる差別の全廃をめざして活動してきました。そして、毎年、宗務総長にあてて繰り返し要望書を提出してきました。

内容は主として以下の5点に絞ってきました。

- 1 女性にも男性と同等の住職の道を！
- 2 同朋会館の補導、修練のスタッフ等のあらゆる宗門内の待遇における女と男の平等を！
- 3 選挙制度の前面見直しを！
- 4 得度の可能な年齢に男女間の格差をなくすことを！
- 5 衣休、堂班、寺格等の差別構造の全廃を！

さて、1の「女性住職」の件は道を開いた、とはいっても条件付きであり、あくまで次の男性へと引き継ぐための代用でしかなく、私たちの要望してきた、性別を理由に不平等な状態を受けないようにするというものではありません。また、4の「得度年齢」については男女ともに九歳という

ことになりました。親鸞の得度が九歳であつたということから、「九歳」というのが決められたのでしょうか？その根拠は何でしょうか？親鸞は自分の自覚において得度したはずです。本来得度は本人の自覚した時期にするのが望ましいといえるでしょう。それには九歳というのはいかなるものでしょうか。ちなみに、本願寺派では十六歳となっています。

そこで、私たちは改めて、以下のことを要望いたします。

- 1 条件付きではない、真に平等な女性住職の道を！
- 2 選挙制度の全面見直しを！
- 3 性差別に関する窓口の設置を！
- ① 同和推進本部主催の、共学研修会の講座の一つには性差別講座を入れること
- ② 教団内の性差別に関する教学・条例をはじめとするすべてのことを検討する委員会を設置すること
- ③ 手話や通訳を設置すること
- 4 教団内の差別構造の全廃を！

一九九三年十月十八日

真宗大谷派における女性差別を考えるおんなたちの会有志

（中略）

真宗大谷派 宗務総長 細川 信元 殿

要望書②（二九九四平成六年）

要望書

私たち「真宗大谷派における女性差別を考えるおんなたちの会」は一九八六年の発会以来、性差別をはじめ、宗門内のあらゆる差別の全廃をめざして活動してきました。

それは同時に、自分が問われる歩みでもありました。

その中から今あらためて左記のことを要望いたします。

記

- 一、女性の眼で、宗門内のあらゆる差別の全廃をめざして、教団の制度や数字を見なおすための、女性委員会の設置を！
- 二、教団が現実にも男性社会であるということの確かめを！その上で女性も教団の構成員と認めることを！

① 条件つきではない真に平等な女性住職の道を！

② 同朋会館の教導、補導、修練スタッフ等のあらゆる宗門内の待遇における男と女の平等を！

三、蓮如上人五百回忌法要にあたり、『お文』の中の「女人」という言葉が果してきた役割と歴史を語り合う全国集会の開催を！

四、「障害者」の方々との出会いのために、また国際交流のために、教団として手話や、通訳を担当する部署の設置を！

一九九四年三月一日

「真宗大谷派における女性差別を考えるおんなたちの会」

北陸地区有志

（中略）

宗務総長 能邨英士 殿

特集 男女共同参画部会

男女両性で形づくる教団を

目指す研修会

男女共同参画部会の特集です。

現行の教化推進本部制になり、新設された男女共同参画部会。昨年開催された「女性の声を聞く会」をはじめ男女両性で形づくる教団を目指すための活動を続けています。今号では二月十二日に若狭地区・小浜市働く婦人の家で開催された研修会の様子を報告してもらいます。

男女共同参画部会 主査 井上啓子

前体制の教化委員会では、組織拡充小委員会が二〇一六年度より「男女両性で形づくる教団を目指す研修会」の地区巡回を開催してきました。現体制に移行され男女共同参画部会がこの事業を引き継ぎましたが、新型コロナウイルス感染症の影響などで三年ほど実施できませんでした。今年度ようやく、若狭地区で開催することができました。二月の中旬ということで、雪が降るのではないかと気になっていましたが、この日は穏やかな良いお天気で、まさに研修会日和でした。

今回は講師に金沢教区常讃寺副住職の藤場芳子さんをお招きしました。地区教化委員長さんが、これは大切な研修会だから、できるだけ多くの方に参加していただきたいということで、比較的余裕のあるこの時期の開催とな



会場の様子



講師の藤場芳子氏



あいあうカルタ

りました。委員長さんのお声かけで住職、坊主、門徒さんなど多くの方に集まっていたできました。また事前学習が必要だということで、藤場さんが書かれた『女と男のナムアミダブツ』を用意していただき、回し読みをしていただいたとのこと、本当にありがたいことでした。

最初に、藤場さんの講義をいただきました。あらためて自分の思い込みや固定観念にとらわれていることに気づかされるお話でした。その後、三班に分かれてカルタ取りをし（あいあうカルタ）、座談をおこないました。畳の部屋でのカルタ取りは子どもの頃を思い出し楽しかったです。また久しぶりにひびぎを突き合わせる機会が減っていたので、コロナの影響で座談の機会が減っていたので、あらためてこのような場の大切さを感じました。

みなさん事前学習されていたからでしょう

ないのであきらめているという方など体験談も多く出ました。やはり男性の家事時間が少ない日本の現状を思い知らされましたが、こういうことを皆で語り合うことは、現状を変えていくのに大切なのだと思います。

今回は、「藤場さんのお話」、「あいあうカルタ取り」、そして「座談」、と全てにおいて男女両性で形づくる教団を目指すというテーマに沿った流れができたように思います。

このようなことを気楽に話す場が組やお寺などいろんなところでできると良いと思います。講師のお話を聞くだけでなく、聞いたお話を身近な方へ伝えていく。そうすることが社会を変えていく力になるのではないのでしょうか。そのためにも気楽に話し合える場を開いていくことが大切であると思います。そのために何かお手伝いできればと思っています。

か、座談会では活発な意見が交わされました。家事を一生懸命やっているのに文句を言われるという方や、頼んでもなかなか

特集 慶讃だより

真宗本廟 慶讃法要

ご本山での「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」の参拝レポートをお届けします。

出版部会副主査 蒲池義圭

京都の桜が満開であった三月二十九日、ご本山の慶讃法要へ組の団体参拝でお参りをした。この日は、好天に恵まれ参拝日和となった。地元よりバスで向かう。ご本山到着は午前十時すぎ。この日の慶讃法要（第一期法要）は午後からということもあって、境内を埋め尽くすほどの人出はまだない。しかし各地からバスは続々と集まりつつあった。

法要は午後からといって、催しは各所で展開されている。その一つ、慶讃寄席を観覧しに視聴覚ホールへと降りていく。参加されているご門徒の中に「ご本山にこんなところがあるんだね」と言われる方もいて、ご本山へ来たという特別な思いを感じておられるように受け取る。

寄席では上方落語の桂小春團治師匠による真宗落語を聞ける。父親の葬儀をき



かけに、自分と親鸞聖人との関係性を地元の物知りの長老より教わっていく主人公。話の中で、聖人のご生涯をなぞられることで、親鸞聖人のご苦勞を知ることや、我々自身の学びの確かめにもつながる話を、面白おかしく聞きたい落語である。

午後になり、慶讃法要が勤まる時間が近づくと境内が活気を帯びていく。続々と参拝の方々が集まってくる。今回は阿弥陀堂と御影堂で同時に法要が勤まることもあり、参拝者はそれぞれ両堂の指定席へと整然と入堂していく。真宗宗歌斉唱の後、合唱団が歌うテーマソングを聞き、内局挨拶の後、勤行となった。この際、大谷暢裕門首は阿弥陀堂へと出仕された。大谷裕新門が御影堂へと出仕され、

両堂同時に勤行する体制となったことを予感した。大谷暢裕門首が阿弥陀堂で登高座・表白・調声されたお声やお姿はスピーカーやモニターを通じて御影堂へと伝えられる。つづいて、正信偈のお勤めの際は、大谷裕新門が調声され、同様に阿弥陀堂へと伝えられた。両堂が一体となつて勤まる法要は、阿弥陀堂で『仏説阿弥陀經』の世界・浄土の莊嚴の世界にふれ、そのいわれを御影堂において、宗祖のお言葉に学んでいき、宗祖の御誕生を寿ぎつつ、そのみ教えを改めて確かめる姿をあらわしている。

大谷暢裕門首が表白で「人間は争いと分断を繰り返します。（中略）私たちは生きるために立場を建てざるを得ない存在であります。その立場は時に、他者を傷つけ排除するか、あるいは立ちすくむしかない現実を作り出してしまします。そのような流転する身を、仏は「汝、凡夫よ」と言い当ててください。宗祖はその仏の呼びかけに出遇い、愚禿の身に帰られました。この宗祖の歩みにこそ、争いと分断を超えてゆく道があります」とおっしゃるように、木越渉宗務総長が金子大栄師の「親鸞聖人の学び方を学ぶのが真宗学である」という言葉を紹介され、「他者と共に生きるといいうことがあらためて問われているこの時代です」と言われるように、親鸞聖人の歩みに、教えに、照らし出され、自らを問うていくその道を、この慶讃法要のテーマ「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」を確かめながら参拝した。

特集 慶讃だより

丹波第二組 お待ち受け大会

先月までご本山で「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」が勤まりました。各地でも慶讃法要お待ち受け大会が勤まっています。

先々月号より『慶讃だより』を引き継ぎ、『教区だより』の特集にて各地でのお待ち受け大会の様子をお届けしております。今月は二月に行われた丹波第二組お待ち受け大会の様子をお伝えします。

出版部会 副主査 蒲池義圭

「大江山 いく野の道の遠ければ」と詠まれる大江山（京都市西京区辺りの大枝山）から、いく野（福知山市生野付近）へと続く、京都丹波地域へ遙かなる悠久の歴史ロマンを感じながら道を進んだ。老坂を通り、大江山を越えるのだが現代の鉄の牛車（まじや）に乗れば、小式部内侍が「遠ければ」と詠んだその道は、京からそれほど時間はかからない。が、確かに、平安の世の峠越えは容易ではない険しさだ。そんなことを感じながら、ガレリアかめおか（亀岡市生涯学習施設）で開催される丹波第二組の慶讃お待ち受け大会へと向かった。会場では丹波第二組の方々が三年ぶりの同朋大会を兼ねた宗祖の慶讃法要お待ち受け大会に向け奮闘中であった。この後会場は一五〇名を超える参加者で賑わうこととなる。



会場の様子（勤行）



講師の真城義麿氏



組門徒会長の挨拶

大会は松下暢樹教化委員長（組長）の挨拶から始まった。挨拶の中で、印象的だったのは、このコロナ下での三年、お寺や組での行事が行えなかったことによって、ご門徒の仏法聴聞の機会が減ったことへの危惧と、場を開くことが出来なかった申し訳なさを感じておられることだった。ご門徒が仏法聴聞の機会を求めておられる…、という熱い気持ちを何とかしたい、と奮闘された形がこの大会であったというのを感じる。「ただ慶讃法要を莊嚴する、盛り上げるためだけの大会ではない、大切な仏法聴聞の場を宗祖から賜ったのだ。だからこそ、次世代へ伝承したい」と仰っていたことも印象的だった。

正信偈同朋奉讃のお勤めの後、真城義麿氏（四国教区善照寺）の講演となった。真城氏の講演は、なぜ今回の慶讃テーマに「南無阿弥陀仏」が掲げられているのか、そこに意味がある、ということを中心に話された。五十年

前の慶讃法要では「生まれたことの意義と生きる喜びを見つけよう」。この時のテーマに南無阿弥陀仏は見当たらない。見当たらないのは、生活の中に南無阿弥陀仏があったからであって付ける必要性も無かったということであり、悲しいかな、今は薄れてきてしまっているのではないかと。だから今回はあえて付けているのではないかと思う、とおっしゃる。

生活の中に「南無阿弥陀仏」がない。忘れてしまっていないか。お念仏を申すということは、世俗空間（俗世間）から聖空間（仏から見る世界）への転換がはかれるということ。「出来る」「出来ない」に縛られる世界から、「ある」「いる」が尊ばれる世界の方が幸せではないかとユーモアたっぷりに話してくださった。

閉会にあたっての木曾利廣組門徒会長の挨拶では、講演の中でも語られた「講」の大切さを改めて実感したこと、そして今日この場に

「講」を設けられたことの喜びを話されて、丹波第二組「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要 お待ち受け大会」を締めくくられた。

教務所からのお知らせ

【敬弔】

ご生前のご功労を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

・山城第一組 教圓寺

住職 井上幸明 七十一歳

二〇二三年 二月十六日

・山城第二組 長榮寺

前坊守 本多美智子 九十九歳

二〇二三年 二月十六日

・近江第一組 徳善寺

坊守 森典子 七十七歳

二〇二三年 一月一日

・近江第二組 最明寺

前住職 木村力 九十八歳

二〇二三年 二月二十八日

・近江第三組 安樂寺

住職 千代唯澄 八十九歳

二〇二三年 四月四日

〔寺院教会番号順敬称略〕

○京都教区慶讃記念品について

京都教区慶讃事業推進委員会教化広報部会では、教区独自の記念品として、冊子『慶讃だより』と、葩（はなびら）を制作しました。有償配布もいたしますので、地区や組や各寺院で慶讃法要を勤められる際の参拝・参加記念品として、ぜひご活用ください。同封の申込用紙にてお申し込みください。



『慶讃だより』冊子

葩（はなびら）

○『教区だより』表紙写真募集

本紙『教区だより』の表紙写真を、読者のみなさまから常時募集しています。写真が好きな方、ぜひ応募ください。募集テーマ「教区内の風景写真」

※人物写真で顔がわかる場合は、被写体の方の承諾を証明いただくことが必要です。

応募方法

メールに必要事項を記入し、写真データを添付して、教務所までお送りください。（京都教務所 担当・赤松）

〔件名〕 教区だより表紙写真応募

〔本文〕 ①氏名 ②組、所属寺

③電話番号 ④写真のタイトル

⑤撮影場所 ⑥ひとこと説明

京都教務所メールアドレス

kyoto@higashihonganji.or.jp

掲載について

『教区だより』編集会議で、掲載写真を選定します。掲載者には、あらためてご連絡いたします。

少し前になるが YouTube で、ある科学者のインタビューを視聴しました。その科学者の著作を学生時代に読んだことがあり、当時とても感銘を受けたことをよく覚えています。インタビューのテーマは「人はなぜ生きるか」でした。その問いに対して「生きているからしょうがない。だから生きている」や「だいたいそういう質問が出るのは暇だから」、「夢中でやっている」ということは気にならない」と回答されていました。

また、生きる理由を考える状況になったら、その状況を変えなくてはならない。自分が満足できる状況を自分で見つけることが大切だとおっしゃっていました。重たい問いに対して、明快に、気持ちよく答えられていました。そして、その回答を聞いたとき、本当に素直になるほどと思いました。しかし、しばらくしてからよく考えてみると、一年中何かに夢中になり自分に満足感をもつて生きていけるだろうか？

イマダカラ

また、今ある状況を冷静に認識して主体的に状況をかえるということが自分できらるだろうか、と思いました。

私たちは、はやく楽になりたいので、手取り早く「答え」を求めてしまいます。そして、その答えを一度つかむと放そうとしません。一樂真先生は「誰とも代わることのできない一度きりの人生を、どうすれば後悔なく満足して生きられるか。簡単に答えがでないことを、問わずにはいられません」とおっしゃいました。

そして、親鸞聖人は南無阿弥陀仏をお釈迦様に聞いていかれたと教えていただきました。「南無阿弥陀仏」は阿弥陀仏に南無せよ、という招喚の勅命であり、この呼びかけを聞くことから始まる生き方があると、親鸞聖人が教えてくださっています。苦勞しても回り道をしても構わない。一人ひとりが人生を尽くしていくことが願われていると受け取りました。

（育成研修部会 副主査 山本滋）

編集後記 The editor's note

ご本山での慶讃法要がお勤まりになりました。何度かお参りして感じたのは、私たちの組でも、慶讃法要をお勤めしたいということ。今回の法要に身を運んで、直接会うことができた人の数は限られています。お寺で慶讃法要ができる

よいのですが、私がお預かりしているお寺も含め、難しい場合も多いのではないのでしょうか。地区や組で慶讃法要をお勤めすること、より多くの人が、自分事として「真宗の仏事の回復」への歩み、念仏相続の歴史に参加していくことが願われています。（出版部会主査 比叡谷真）

京都教区 5 月の行事予定

教区・地区・関係団体事業

2日(火)	16:00～18:00	准堂衆会	教区会館 2 階 大講堂
9日(火)	13:30～16:00	男女両性で形づくる教団を目指すための懇談の場	教区会館 2 階 大講堂
10日(水)	9:30～15:30	坊守会 基礎講座 (Zoom併用)	教区会館 2 階 大講堂
18日(木)	13:50～16:30	同朋会議 講師 宮下晴輝 氏 (教学研究所所長)	しんらん交流館 大谷ホール
19日(金)	9:00～17:30	親鸞ウォーク	JR 近江八幡駅 (集合)

教区諸会議

8日(月)	14:00～17:00	常任本部会 第4回 (Zoom 併用)	教区会館 2 階 大講堂
11日(木)	13:30～17:00	出版部会 企画検討会議	教区会館 3 階 会議室
11日(木)	13:30～16:00	教化推進本部 調整協議会	教区会館 2 階 大講堂
12日(金)	10:30～15:00	教化推進本部 出版部会 (Zoom 併用)	教区会館 3 階 研修室
12日(金)	11:00～15:00	教化推進本部 青少幼年教化部会	教区会館 3 階 会議室
17日(水)	14:00～17:00	同和協議会 総会・研修会 講師 藤井慈等 氏 (三曹 慶法寺)	教区会館 2 階 大講堂
18日(木)	10:00～12:00	教化推進本部会	教区会館 2 階 大講堂
23日(火)	13:00～16:30	教化委員会 総会	教区会館 2 階 大講堂
24日(水)	11:00～15:00	教化推進本部 青少幼年教化部会	教区会館 3 階 会議室
24日(水)	13:00～16:00	部落差別問題に関する改編協議会	長浜教務所
29日(月)	13:30～17:00	地区教化委員長会	教区会館 2 階 大講堂

教区別院事業

1日(月)	13:30～15:30	山科 同朋の会 講師 赤松崇麿 師 (教区駐在教導)	山科別院
1日(月)	13:00～15:00	赤野井 教如上人御命日逮夜法要 (定例法要)	赤野井別院
6日(土)	14:00～16:00	伏見 声明作法講座	伏見別院
9日(火)	11:00～12:00	大津 蓮如上人御影道中 講師 藤原猶真 師 (御上洛随行教導)	大津別院
9日(火)	13:00～14:00	山科 蓮如上人御影道中 講師 藤原猶真 師 (御上洛随行教導)	山科別院
10日(水)	14:00～16:30	伏見 同朋の会	伏見別院
20日(日)	14:00～16:00	大津 同朋の会 講師 本多春菜 師 (近江 第8組 玄照寺)	大津別院
25日(木)	14:00～16:00	山科 永代経 (定例法話) 講師 沙加戸崇 師 (近江 第1組 響忍寺)	山科別院
27日(土)	13:00～15:00	赤野井 宗祖親鸞聖人御命日逮夜法要 (定例法要)	赤野井別院
27日(土)	14:00～16:00	伏見 ご命日のつどい 講師 長嶋明子 師 (近江 第6組 願證寺)	伏見別院

各地区等のお待ち受け法要

6日(土)	13:00～16:30	湖南地区 お待ち受け大会 法話 川村妙慶 師 (山城 第2組 正念寺) 他	栗東芸術文化会館さくら 栗東市穂二丁目 1-28
21日(日)	13:30～17:00	湖東地区 お待ち受け大会 法話 尾畑文正 師 (同朋大学名誉教授)	ハーティーセンター秦荘 滋賀県愛知郡愛荘町安孫子 822

○教務所 閉所のお知らせ 5月15日(月)・16日(火) 近畿連区所員研修会のため教務所を閉所いたします。ご承知おきください。

真宗大谷派 京都教区 教化広報誌
『教区だより』第397号
[発行人] 篠岡誓法(真宗大谷派京都教務所長)
[発行所] 真宗大谷派京都教務所
〒600-8164 京都市下京区花屋町通烏丸西入
Tel:075(351)5260 Fax:075(351)5256

【表紙の写真】大寝殿 (京都教務所 仁宗寿)
発行日 2023 (令和 5) 年 5 月 1 日
メールアドレス: kyoto@higashihonganji.or.jp

真宗大谷派 京都教区 Webサイト
https://www.k-kyoku.net

京都教務所

検索

